

3 章

合気道の指導計画

1 合気道の学習内容と評価規準

(1) 学習内容

	第 1 学年及び第 2 学年	
技能	①技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにする。合気道では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、投げたり抑えたり受けたりするなどの攻防を展開すること。 ■基本動作 構え、受身、歩み足、送り足、転回足、転換足 ■基本となる技（対人的技能） 第 1 学年…逆半身片手取り角落し、相半身片手取り小手返し、呼吸法（座法） 第 2 学年…逆半身片手取り四方投げ（裏）、正面打ち第一教（表）、相半身片手取り入身投げ（転回足） ■演武	
態度	②合気道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることや、安全に留意して互いに協力して練習ができるようにする。 ■相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとする態度 相手を尊重し合うための独自の作法、所作を守るために、自分で自分を律する克己の心を表すものとして礼儀を守るという考え方を理解し、取り組めるようにする。単に形の指導だけに終わるのではなく、相手を尊重する気持ちを込めて行うことが大切である。 ■分担した役割を果たそうとする態度 稽古を行う際の準備や後片付け、演武の号令係などの分担した役割に積極的に取り組めるようにする。分担した役割を果たすことは、稽古を円滑に進めることにつながるだけでなく、責任感を育てることもなることを理解し、取り組めるようにする。 ■仲間の学習を援助する態度 仲間の練習相手を引き受けたり、技の行い方などの学習課題の解決に向け、仲間に助言しようとする態度がとれるようにする。自己の能力を高めたり、仲間との連帯感を高めて、気持ちよく活動することにつながることを理解し、取り組めるようにする。 ■健康・安全に気を配る態度 体調の変化などに気を配ること、危険な動作をしないこと、練習場所の整備など、自己や仲間の安全に留意する態度がとれるようにする。体調に異常を感じたら運動を中止すること、畳などの設置の仕方や起こりやすいケガの事例を理解する。	
知識、 思考・ 判断	③合気道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方などを理解し、課題に応じた練習の仕方や運動の取り組みを工夫できるようにする。 【知識】 ■武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方に関する知識 武道は単に勝敗を目指すだけでなく、技能の習得を通して礼法を身に付けるなど、人間として望ましい自己形成を重視するという考え方があることを、理解できるようにする。 ■技の名称や行い方に関する知識 武道で用いられる技には名称があり、それぞれの技を身に付けるための技術的ポイントがあることを理解できるようにする。 ■どの体力要素がどのように高まるのかという知識 武道を継続することで、合気道では敏捷性、柔軟性、巧緻性などがそれぞれの技に関連して高められることを理解できるようにする。 ■演武の行い方に関する知識 練習の成果を発表する機会として演武があり、演武の運営方法についても理解できるようにする。 【思考・判断】 ■課題を見出し、その課題の解決方法を工夫する 活動の仕方、組み合わせ方、安全上の留意点などの学習内容を、学習場面に適応したり応用したりできるようにする。	

武道を学習することの目標および内容は、現行中学校指導要領および中学校学習指導要領解説（保健体育編）に記されている。運動に関する領域である「武道」では、学習指導要領において、指導内容が（1）技能、（2）態度、（3）知識、思考・判断で示されており、これらの指導内容に対応した学習状況について、「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の技能」「運動についての知識・理解」の4つの観点から評価することになる。

ここでは、合気道の「学習内容」および「評価規準に盛り込むべき事項」を示した。「評価規準に盛り込むべき事項」とは、学習指導要領の目標および内容をもとに、評価の観点の趣旨を踏まえて作成したものである。

	第3学年
①技を高める楽しさや喜びを味わい、いろいろな技を身に付けることができるようにする。合気道では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技、表技と裏技を用いて、相手を崩して投げたり抑えたり、技を受けたりするなどの攻防を展開すること。 ■基本動作 構え、受身、歩み足、送り足、転回足、転換足 ■基本となる技（対人的技能） 第3学年…逆半身片手取り四方投げ（表）、正面打ち第一教（裏）、相半身片手取り入身投げ（転換足） ■演武	②合気道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 ■相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする態度 伝統的な行動の仕方を所作として単に守るだけでなく、礼法などの伝統的な行動の仕方を自らの意志で大切にしようとする。そのために、相手を尊重し、自分で自分を律する克己の心を理解し、取り組めるようにする。 ■自己の責任を果たそうとする態度 稽古を行う際の準備や後片付け、演武の号令係などの分担した役割に、責任をもって自主的に取り組めるようにする。自己の責任を果たすことは、稽古を円滑に進めることにつながることや、自主的な学習が成立することを理解し、取り組めるようにする。 ■仲間の学習を援助する態度 仲間の練習相手を引き受けたり、運動観察などを通して仲間の課題を指摘するなど教え合ったりする態度がとれるようにする。互いに助け合い教え合うことは、相互の信頼関係を深めたり、課題の解決に役立つなど自主的な活動を行いやすくすることにつながることを理解し、取り組めるようにする。 ■健康・安全に気を配る態度 相手の技能の程度や体力に応じて加減すること、ケガや事故につながらないように畳の状態などを整えること、施設の広さに応じた安全対策を講じること、自己の体調、技能、体力の程度に応じた技術的な課題を選んで段階的に挑戦することなどを通して、健康を維持したり自己や仲間の安全を保持したりすることを理解し、取り組めるようにする。
③合気道の伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。 【知識】 ■伝統的な考え方に関する知識 我が国の文化である武道を学習することは、国際社会で生きていく上で有意義であることを理解できるようにする。 ■技の名称や見取り稽古に関する知識 武道で用いられる技には名称があることを理解できるようにする。また、「見取り稽古」とは、武道特有の練習方法であり、他人の稽古を見て、技のかけ方などを学ぶことも有効な方法であるということを理解できるようにする。 ■どの体力要素がどのように高まるかという知識 合気道では敏捷性、柔軟性、巧緻性などがそれぞれの技に関連して高められるというだけでなく、繰り返したり継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることを理解できるようにする。 ■運動観察の方法に関する知識 自己の動きや仲間の動きを分析するには、自己観察や他者観察などの運動の観察の方法があることを理解できるようにする。 ■演武の行い方に関する知識 練習の成果を発表する機会として演武があり、演武の運営方法についても理解できるようにする。 【思考・判断】 ■自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫する これまで学習した知識や技能を活用して、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。	

(2) 評価規準に盛り込むべき事項

第1学年および第2学年

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
合気道の楽しさや喜びを味わうことができるよう、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。	合気道を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	合気道の特性に応じて、稽古を成立させるための基本動作や基本となる技を身に付けている。	合気道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力、演武の行い方を理解している。

第3学年

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
合気道の楽しさや喜びを味わうことができるよう、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。	生涯にわたって合気道を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	合気道の特性に応じて、稽古を成立させるための基本となる技を身に付けている。	伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方、運動観察の方法、演武の行い方を理解している。

2 指導計画作成上の留意点

合気道の学習指導を効率よく展開するためには、地域や学校の実態、生徒の心身の発達段階を十分に考慮し、中学校3年間を見通した上で目標や内容を明確に定め、調和のとれた具体的な指導計画を作成することが大切である。さらに、年間計画や単元計画（指導案）などの指導計画を作成する上では、学習指導要領の目標を踏まえるとともに、授業の実施方法について留意する必要がある。

授業の実施方法については、ある期間に集中して実施する方法（週3時間を合気道にあて、数週間連続して実施する方法）と、年間にわたって継続して実施する方法（週1時間を合気道にあて、ある程度長期間で実施する方法）がある。

3 単元計画の立て方

単元計画の作成においては、学習指導要領にある学習内容を学校の実情に合わせて具体化し、単元の目標を明らかにする。また、この目標は生徒の学習のねらいになるとともに、単元の学習を通じて評価の規準にもなりうる。

ここでは、学習内容の「技能」、「態度」、「知識、思考・判断」の学習内容を具体化した「単元の目標」および「評価規準の設定例」の例を挙げる。

第1学年および第2学年

単元の目標

- ①技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作ができるようになるとともに、相手の動きに応じながら、基本となる技ができるようにする。
- ②合気道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、安全に留意して互いに協力して練習ができるようにする。
- ③合気道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方などを理解し、課題に応じた練習の仕方や運動の取り組み方を工夫できるようにする。

評価規準の設定例

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
- 合気道の学習に積極的に取り組もうとしている。 - 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 - 分担した役割を果たそうとしている。 - 仲間の学習を援助しようとしている。 - 健康や安全に留意している。	- 技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見つけている。 - 課題に応じた練習方法を選んでいる。 - 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見つけている。 - 学習した安全上の留意点を他の練習場面に当てはめている。	基本動作をふまえ、相手の動きに応じながら基本となる技ができる。	- 合気道の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 - 合気道の伝統的な考え方について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 - 技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 - 演武の行い方について学習した具体例を挙げている。

指導と評価の計画

第1学年 【10時間】

指導と評価の計画（第1学年）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	学習 1	学習 2 合気道に必要な基本動作と対人的技能を身に付けて楽しむ					学習 3 対人的技能を身に付け、技能を高めて練習を楽しむ				まとめ
学習のねらい	・合気道の学習の仕方や練習方法を学ぶ ・合気道に対する興味・関心を高める	・道場やお互いの礼法を守ることができる ・基本動作について正しく理解する	・後ろ受身が正しくできる ・受けと取りの役割を理解する	・技の中で後ろ受身を行うことができる ・呼吸法（座法）について理解する	・逆半身片手取り角落しの技の動きを正しく行うことができる ・お互いを尊重しながら稽古することができる	・合気道は相手の動きに合わせて稽古することを理解する ・他のグループの演武を見ることで、それぞれの技のポイントを整理し、理解を深める	・小手返しの手づかみ方を正しく理解する ・危険な動作はせず、相手の技能や体力に応じて技を行うことができる	・基本動作が技の中で使われていることを理解する ・相半身片手取り小手返しの技の動きを正しく行うことができる	・相手の体調や体力に配慮しながら、いろいろな相手と稽古することができる ・相手を替えて繰り返し稽古することによって、技能の向上をはかる	・演武を通して技の習得の成果を実感し、課題を明確にする ・他のグループの演武を見ることで、それぞれの技のポイントを整理し、理解を深める	
	はしめ	集合・挨拶、目標確認 準備体操									
	展開	1. オリエンテーション ・授業の流れ、約束事の説明 ・合気道の歴史や特性について 2. 基本動作 ・正座 ・礼法 ・構え（単独）	1. 基本動作 ・構え（単独・相対） ・体さばき（転回足、転換足） 2. 後ろ受身①	1. 基本動作 ・構え（単独・相対） ・体さばき（転回足、転換足） 2. 後ろ受身①、② 3. 逆半身片手取り角落し	1. 後ろ受身①、② 2. 逆半身片手取り角落し 3. 呼吸法（座法）	1. 逆半身片手取り角落し 2. 呼吸法（座法）	1. 逆半身片手取り角落し 2. 呼吸法（座法） 3. グループ演武	1. 逆半身片手取り角落し 2. 呼吸法（座法） 3. 呼吸法（座法）	1. 相半身片手取り小手返し 2. 逆半身片手取り角落し 3. 呼吸法（座法）	指導のポイント ③(イ)小手返し ・相半身になる ・手と足の使い方を覚える	
		指導のポイント ②(ア)座礼 ・背筋を伸ばす ・頭を下げる	指導のポイント ①後ろ受身 ・後頭部を打たない ・ついた足のつま先を伸ばす	指導のポイント ③(ア)角落し ・逆半身になる ・手と足の使い方を覚える	指導のポイント ③(イ)呼吸法・取り ・両手が内側にある ・膝を進めて相手についていく ③(イ)呼吸法・受け ・肩や頭を打たない ・相手の手を最後までつかんでいる						
学習の流れ		整理運動、本時のまとめ、学習ノートの記入、片付け									

学習活動に即した評価(1年の例)および 評価の機会									
関心・意欲・態度	①合気道の学習に積極的に取り組もうとしている	①. ②(ア) ②相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている	③仲間の学習を援助しようとしている	③健康や安全に留意している	②(イ)	①. ②(ア), ③, ④	②(イ)		
	①技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見つけている★					①技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見つけている★	②学習した安全上の留意点を他の練習場面に当てはめている★		
	①後ろ受身ができる	③基本となる技ができる	②(ア), (イ) ③基本となる技ができる	③基本となる技ができる	①	③基本となる技ができる	①, ②, ③		
	①合気道の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている★		②技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている★			②技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている★			
○は指導の機会であり、数字は前掲「評価基準の整理表」に対応している。□は学習ノート等による評価									
関心・意欲・態度および運動の技能の観察評価の判断基準									
関心・意欲・態度	運動の技能			運動の技能					
				①後ろ受身(技の中で) ・後頭部を打たない ・ついた足のつま先が伸びている ・相手側の膝をつく ②(ア)座礼 ・背筋が伸びている ・頭を下げている ②(イ)半身の構え ・足の幅は肩幅程度 ・前足のつま先は相手に対してまっすぐ向ける ・後ろ足は前足に対してほぼ直角にする	③(ア)角落し ・逆半身になっている ・手、足の使い方を覚えて、その形ができている ③(イ)呼吸法(座法) (取り)・両手が内側にある (受け)・肩や頭を打たない ・相手の手を最後までつかんでいる ③(ウ)小手返し ・相半身になっている ・手、足の使い方を覚えて、その形ができている				

単元の目標

- ①技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作ができるようになるとともに、相手の動きに応じながら、基本となる技ができるようにする。
- ②合気道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、安全に留意してお互いに協力して練習ができるようにする。
- ③合気道の特性や伝統的な考え方、技の名称や行い方などを理解し、課題に応じた練習の仕方や運動の取り組み方を工夫できるようにする。

単元の評価規準

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
- 合気道の学習に自主的に取り組もうとしている。 - 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。 - 自己の責任を果たそうとしている。 - 互いに助け合い教え合おうとしている。 - 健康・安全を確保している。	- 自己の技能・体力の程度に応じた技を身に付けている。 - 提供された技の行い方から、自己に適した技の行い方を選んでいる。 - 仲間に対して、技術的課題や有効な練習方法の選択について指摘している。 - 健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。 - 武道を継続して楽しむための自己に適した関わり方を見つけている。	基本動作をふまえ、相手の動きに応じながら基本となる技ができる。	- 合気道の伝統的な考え方について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 - 技の名称や見取り稽古の仕方について、学習した具体例を挙げている。 - 合気道に関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。 - 運動観察の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 - 演武の行い方について、学習した具体例を挙げている。

4 指導と評価の設定例

学習指導要領では、第1学年および第2学年ですべての領域を取り上げることになっているが、ここでは2年間継続して1つの領域を取り扱う場合を示す。この場合、「運動の技能」の観点は各学年の評価規準を設定し、それ以外の観点は評価規準を各学年に振り分け、2年間を見通した評価規準を設定することになる。

また評価方法に関しては、効果的・効率的な評価が行えるように、学習ノート等などで授業後に教員が確認しながら評価を行えるような方法と、授業中の見取りを組み合わせた評価方法を採用し、評価結果を記録する機会を過度に設定することがないように配慮する必要がある。

観点別評価の進め方

手順1：「学習に即した評価規準」を設定するために、「態度」、「思考・判断」、「技能」、「知識・理解」の指導内容を2学年に分け、第1学年と第2学年の評価規準を整理する。

→ ア) 評価規準の整理表

手順2：指導内容と評価規準を確認する。指導内容を明確にし、手順1で作成された評価規準と指導内容を関連させる。

→ イ) 指導内容および学習活動に即した評価規準

手順3：観点ごとに作成した「指導内容および学習活動に即した評価規準」を、学習の流れの中で指導内容や指導する機会と連動させ、効果的・効率的な評価機会や評価方法を計画する。

→ ウ) 指導内容と学習の流れ、評価機会の検討

学習指導案作成にあたっての留意点

本書で紹介する指導案は、各自において次のようなことを考慮しながら作成されている。

1. はじめ

準備運動について

- ・後ろ受身、体さばき等の基本動作は、学習後は準備運動に加える。

2. 展開

対人的技能について

- ・初回学習時には、技の最終形を示範し技のイメージを持たせた後、部分的指導を行う。
- ・合気道の稽古方法に従い、技の稽古に入る前に教員が技を示範し、生徒に見取り稽古をさせる。

ア) 評価規準の整理表

内容	第 1 学年	第 2 学年
態度	①合気道の学習に積極的に取り組もうとしている（意欲）。 ②相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 （ア）礼法 （イ）公正な態度 ③仲間の学習を援助しようとしている（学習の援助）。 ④健康や安全に留意している（安全への留意）。	①合気道の学習に積極的に取り組もうとしている。 ②仲間の学習を援助しようとしている。 ③健康や安全に留意している。 ④分担した役割を果たそうとしている。
思考 判断	①技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見つけている。 ②学習した安全上の留意点を他の練習場面に当てはめている。	①課題に応じた練習方法を選んでいる。 ②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見つけている。
技能	①後ろ受身ができる。 ②基本動作ができる。 （ア）座礼 （イ）半身の構え ③基本となる技ができる。 （ア）逆半身片手取り角落し （イ）呼吸法（座法） （ウ）相半身片手取り小手返し	①後ろ受身ができる。 ②基本動作ができる。 （ア）座礼 （イ）半身の構え （ウ）体さばき ③相手の動きに応じながら基本となる技ができる。 （ア）逆半身片手取り四方投げ（裏） （イ）正面打ち第一教（表） （ウ）相半身片手取り入身投げ（転回足）
知識 理解	①合気道の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 ②技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。	①合気道の伝統的な考え方について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 ②合気道に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。 ③演武の行い方について学習した具体例を挙げている。

イ) 指導内容および学習活動に即した評価規準（第1学年）

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
指導内容 礼法の指導 ・道場への例 ↓ 評価規準 ①相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている ↓ ・取りと受けの役割を理解し、お互いに尊重する気持ちが強くなる ・分担した役割を果たすことが、演武を円滑に進めることにつながる ↓ ②分担した役割を果たそうとしている	技の名称や行い方を示す ↓ ①技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見つけている ↓ 対人的技能の学習において、学習した安全面の知識を活用する場面の設定 ↓ ②学習した安全上の留意点を他の練習場面に当てはめている	膝をつき、つま先を伸ばし、頭を打たずに後ろに転がる ↓ ①後ろ受身ができる ↓ ・正しく座礼ができる ・半身の構えができる ↓ ②基本動作ができる ↓ 技の中で、手や足を正しく動かせる ↓ ③基本となる技ができる	合気道は試合がなく、相手の動きに合わせて稽古するという特性があること ↓ ①合気道の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている ↓ 合気道の技には名称があり、各技に技術的なポイントがあること ↓ ②技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている

※□内は指導内容を、丸数字は評価基準を示す。

指導と評価の計画において留意した点

- ①「思考・判断」「知識・理解」の観点とは、指導後は時間をあけずに評価の機会を設定する。
- ②「関心・意欲・態度」「運動の技能」については、指導後一定の期間を設け、適切な時間に評価の機会を設定する。
- ③観察の場合は、1単位時間内に複数の観点の評価機会を設定しないようにする。
- ④「関心・意欲・態度」「技能」については、教員の観察による判断を中心とし、「思考・判断」「知識・理解」については、学習カードの記載等を中心に判断する。